

# 横浜市感染症発生動向調査報告 11月

## 《今月のトピックス》

- インフルエンザが流行しています(A型が多くを占めています)
- 麻しんの報告がありました。
- 風しんの報告が続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈11月期に報告された全数把握疾患〉

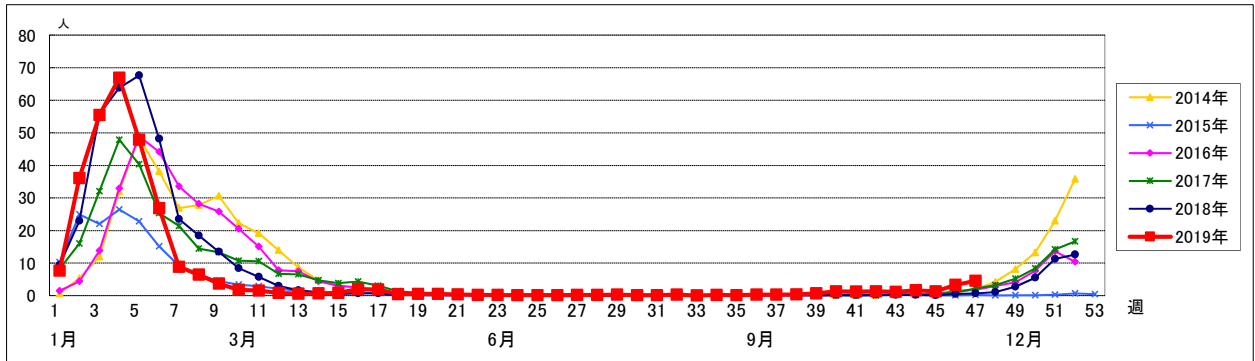
腸管出血性大腸菌感染症	6件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
E型肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
レジオネラ症	7件	梅毒	10件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件	百日咳	5件
急性脳炎	2件	風しん	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	麻しん	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	2件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157が5件(うち1件は無症状病原体保有者)、O121が1件(無症状病原体保有者)ありました。
- E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型6件、ポンティアック熱型1件の報告があり、感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 8件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 幼児の報告が1件(病原体はインフルエンザA)、30歳代の報告が1件(病原体不明)ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が2件、G群の報告が1件ありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む): 無症状病原体保有者が1件、その他が1件で、いずれも男性でした。感染経路はいずれも性的接触で、同性間が1件、同性間または異性間が1件でした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 30歳代の報告が1件、50歳代の報告が1件、60歳代の報告が1件(ワクチン接種なし)、70歳代の報告が1件(ワクチン接種あり)、80歳代の報告が1件(ワクチン接種なし)ありました。
- 水痘(入院例に限る): 30歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
- 梅毒: 10件の報告(無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件)がありました。感染地域は国内8件、台湾1件、不明1件で、感染経路は性的接触が9件(異性間7件、同性間1件、同性間または異性間1件)、不明1件でした。性別は男性7件、女性3件でした。
- 百日咳: 10歳未満が1件(ワクチン接種あり)、30歳代が1件(ワクチン接種なし)、40歳代が1件(ワクチン接種不明)、50歳代が1件(ワクチン接種不明)、60歳代が1件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例1件(60歳代、ワクチン接種不明)が報告されています。
- 麻しん: 東南アジアでの感染と推定される検査診断例1件(30歳代、ワクチン接種1回あり)が報告されています。

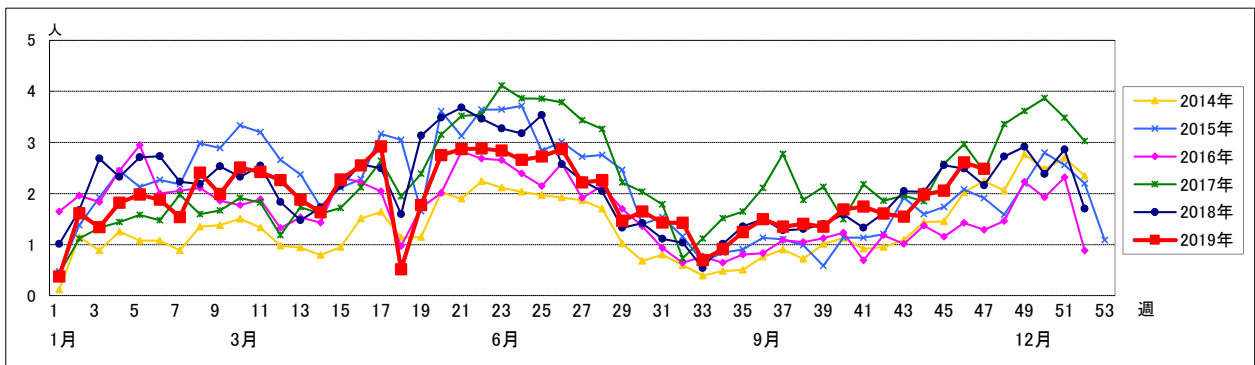
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第44週	10月28日～11月 3日
第45週	11月 4日～11月10日
第46週	11月11日～11月17日
第47週	11月18日～11月24日

1 インフルエンザ: 市全体の定点あたりの患者報告数は、第35週で0.15、第36週で0.29、第39週で0.66と増加し、第40週で1.32となり、流行開始の目安(1.00)を上回りました。その後は横ばいで推移していましたが、第46週で3.26、第47週で4.55と増加しています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 夏に報告数が減少していましたが、例年と同様に冬季に入って報告数が増加しています。第46週で2.61、第47週で2.48となっています。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:25件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 9件	女性:12件
尖圭コンジローマ	男性: 2件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:11件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.75	0.50	0.33
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.25	0.00

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点39件、内科定点12件、基幹定点12件、眼科定点4件で、定点外医療機関からは6件でした。

12月9日現在、ウイルス分離27株と各種ウイルス遺伝子4件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(11月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	脳 症	肺 炎	胃 腸 炎	手 足 口 病	発 疹 症
インフルエンザ AH1pdm型		20	1	1 1			
インフルエンザ AH3 型		3					
コクサッキー A16 型						2	
麻疹							1
ライノ	1						
サポ					1		
合計	1	23	1	1 1	1	2	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

11月の「菌株同定」依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、非結核性抗酸菌1件の依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌6件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌11件、劇症型溶血レンサ球菌2件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からリケッチア3件、クラミジア1件、保健所からレジオネラ1件の検査依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(11月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
基幹定点	腸管出血性大腸菌	1	O157:H7 VT1 VT2 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter cloacae</i> (1)
医療機関 非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	6	<i>Klebsiella (Enterobacter) aerogenes</i> (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (1)、 <i>Citrobacter freundii</i> (1)
	非結核性抗酸菌	1	<i>Mycobacterium lentiflavum</i> (1)
保健所	腸管出血性大腸菌	6	O157:H7 VT1 VT2 (2)、 O157:H7 VT2 (1)、 O157 VT2 (1)、O26:H11 VT1 (1)、 O121 VT2 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	11	<i>Klebsiella (Enterobacter) aerogenes</i> (4)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (3)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (2)、 <i>Escherichia coli</i> (1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)
	劇症型溶血レンサ球菌	2	A群溶血性レンサ球菌 (2)

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関 基幹定点	リケッチア (つつが虫病・紅斑熱群)	全血・痂皮	3	不検出(nested PCR) (3)
	クラミジア	咽頭ぬぐい液	1	不検出(realtime PCR) (1)
保健所	レジオネラ	喀痰	1	不検出 (1)

小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	T4 (1)、T6 (2)、T12 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】